

ながされない

今回は、他人の意見やフェイクニュース等の不確かな情報にながされないためにはどうすればいいのかをテーマに描いた本をご紹介します。

1冊目は、谷川俊太郎、アムネスティ・インターナショナル/文 いせひでこ/絵『かさをささないシランさん』です。

大きな町に雨が降っています。みんなが傘をさしている中で、一人だけ傘をさしていない男性が主人公のシランさんです。シランさんは、カッコよくて親切で仕事もできることから、上司だけでなく同僚や友人からも慕われています。そんなシランさんが、ある些細な理由から逮捕されてしまいます。無実を主張しますが、誰も信じてくれません。シランさんが逮捕されたことを知ると周りの人たちもシランさんを疑いはじめて…。

自分の考えを貫くことの大切さや難しさを描いた絵本です。

2冊目は、久米絵美里/著『嘘吹きネットワーク』です。

主人公の小野寺理子は、正義感の強い小学6年生の女の子です。最近理子の小学校では、SNSに投稿された嘘から様々な事件が起こっていました。そこで理子は事件を解決するために、加工画像や動画をつくりSNSに投稿している少年・錯がいる「矢吹写真館」に乗り込むことにしますが…。

最初は理子の正義感が強すぎるあまりに息苦しさを感じることもありますが、物語のラストでその正義感の理由が分かります。この物語は児童向けに出版されていますが、現代の子どもたちの生きにくい世界がリアルに描かれており、ぜひ親世代の方にも読んで欲しい1冊です。続編の『嘘吹きパスワード』も合わせて、おすすめします。

3冊目は、佐野広実/著『誰かがこの町で』です。

真崎雄一の勤める法律事務所に、十九年前に失踪した家族を探して欲しいという若い女性が調査の依頼に訪れます。調査を担当することになった真崎は、一家が以前住んでいた与久那町鳩羽地区の“安全で安心な町”を目標として掲げている「美しが丘ニュータウン」に向かうことに…。

この物語は、町に入り込んでいく主人公・真崎の視点と、過去におこった誘拐殺人事件の被害者である街の住人・木本千春の2人の視点で描かれています。物語が進むうちに、未解決のままだった誘拐殺人事件の恐ろしい真相が明らかになっていきます。周りの意見や行動に合わせなければならないという無言の圧力に流されることの恐怖を鮮烈に描いた作品です。

他にも、同調圧力に関係する本や周りに流されずに自分の生き方を貫いた人の本などを新着コーナーで紹介しています。ぜひ、図書館にお越しください。